

## 《留学生向け特別授業（2単位）》

学部：日本法入門

大学院：法政理論特殊講義（修士課程）

法政理論特別研究（博士後期課程）

このことについて、下記のとおり開講しますので、履修希望者は担当係（学部生：教務担当，研究生・大学院生：学事担当）で履修登録期間に登録してください。

記

### 【授業内容】

学部生，研究生，大学院生として来日したばかりの留学生を対象に，日本の法学・政治学の基礎的理解を得ることを目的とする授業（詳細については，別紙参照）

### 【担当教員】

曾野裕夫，伊藤一頼，松尾誠紀，桑原朝子，前田亮介

### 【授業日程】（予定）

9月24日（木）1講目	}	（担当：伊藤 一頼）
9月24日（木）5講目		
9月28日（月）1講目		
10月 5日（月）1講目 休講		
10月12日（月）1講目	}	（担当：曾野 裕夫）
10月19日（金）1講目		
10月26日（月）1講目		
11月 2日（月）1講目	}	（担当：松尾 誠紀）
11月 9日（月）1講目		
11月16日（月）1講目		
11月30日（月）1講目	}	（担当：桑原 朝子）
12月 7日（月）1講目		
12月14日（月）1講目		
12月21日（月）1講目	}	（担当：前田 亮介）
1月18日（月）1講目		
1月25日（月）1講目		

全15回

### 【実施方法】

オンライン授業（実施形態の詳細はELMSで周知）

### 【評価方法】

授業参加態度及び各担当者のレポートによる。

令和2年9月7日 教務担当・学事担当

**○ (担当：伊藤 一頼) (3回)**

本講義では、日本国憲法に関する基礎的な内容について解説する。具体的には、基本的人権の保障、統治機構、司法制度について説明する予定である。各回の授業開始時間までに ELMS に資料と音声ファイルをアップロードする。成績評価はレポート (約 1000 字) によって行う。

**○ (担当：曾野 裕夫) (3回)**

日本の民事法 (特に民法) について概略的な理解を得ることを目的とする。3 回の講義においては、法体系における民法の位置付けや民法の基本構造について説明した後、民法総則・物権法・債権法に区分した上で、それぞれにおいて問題となる基礎的な概念と制度について説明する。成績評価は、講義内容に関する 1000 文字程度のレポートによって行う。

なお、この授業は Zoom を用いて行うことを予定している。アクセス方法については別途指示する。

**○ (担当：松尾 誠紀) (3回)**

本講義では、刑事法に関する基礎的知識の修得を目的とする。

各回の講義では、次の内容を予定している。

- ① 刑法の基礎。正当防衛など。
- ② 刑事訴訟法の基礎。裁判員制度。
- ③ 刑事政策学の基礎。少年事件の手続。

授業はオンデマンドで実施する (音声付 PowerPoint を ELMS 上に掲載する)。

成績評価は、講義内容に関する 1000 字程度のレポートによって行う。

**○ (担当：桑原 朝子) (3回)**

日本法の歴史においては、古代から現在まで数度に上る外国法の受容が極めて重要な意義を持っており、授業では、その検討を通じて、日本法及び日本文化の特徴や、法と社会構造の関係について、歴史的に考察することを目指す。より具体的には、古代における中国の律令制の導入、近世における中国法文化の受容、近代における西洋法の「継受」を取り上げ、取り入れた外国法やそれを支える思想・意識と日本の社会構造との間でいかなる相互作用が起きるかを明らかにする。成績評価は、講義内容に関わるテーマの 1000 字程度のレポートによって行う。この授業は Webex を用いた双方向同時配信の形式で行う予定である。アクセス方法については別途指示する。

**○ (担当：前田 亮介) (3回)**

本講義では、政治学の観点から、大日本帝国憲法および日本国憲法の歴史的歩みについて基礎的な解説を行う。具体的には、①大日本帝国憲法の制定過程、②日本国憲法の制定過程、③両憲法の解釈と運用をめぐる論争 (とくに、「天皇機関説」と「9 条=安保体制」)、について、それぞれ 1 回ずつ取り扱う予定である。

成績評価は、講義内容に関する 1000 字程度のレポートによって行う。